

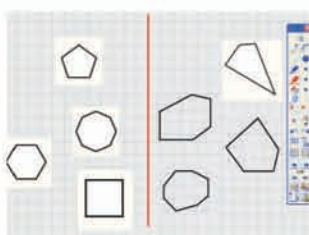
実践テーマ 電子黒板を使って、正多角形の角の数が増えると円に近づくことを理解させる。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 前時の復習で正多角形の特徴、仲間分けをする。
 〈展開〉 合同な二等辺三角形を並べて正多角形を作り、頂点の数が増えたときのきまりを見つける。(情報の共有化)
 〈まとめ〉 正二十角形を見て円のように見え、角の拡大で正多角形であることがわかる。(知識の定着)

本時の展開

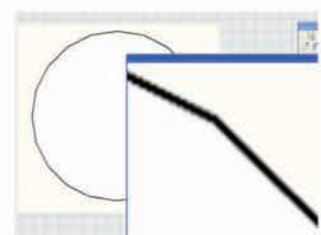
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 正多角形の性質を確認する。 正多角形に仲間分けをする (PC教材①)。 本時の課題をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作PC教材 (正多角形に仲間分け) 使用ソフトウェア： PenPlus プロV2.0 ((有)プラスソフト)
展開	<ul style="list-style-type: none"> 合同な二等辺三角形を並べて正多角形 (正方形、正五角形、正六角形、正八角形) を作る 並べた正多角形の頂点が増えるときの変化の決まり (辺が短くなる。角が大きくなる。中心にできる角は小さくなっていく等。) を見つける (PC教材②)。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作PC教材 (正多角形の決まり)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 正多角形の角が増えていくとどうなるかを予想する。 正多角形の角が増えていくと内角、頂点が増えていくことがわかり、限りなく円に近づくことを理解する (PC教材③)。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作PC教材 (正二十角形)



正多角形の特徴に注目して仲間分けをする



角度、頂点、辺に注目して児童が書き込む



縮小した正二十角形を拡大提示し正多角形であることを理解させる

児童の反応・効果

- 正多角形の中心から三角形をしきつめるという算数的活動と本時のめあてが結びつき、理解ができた。
- 算数的活動によって類推していたことが電子黒板による図形提示で確認され、より確かな理解へとつながった。

活用のポイント

- 小さいものを瞬時に拡大し、そこに書き込むことで、児童に一斉授業の中で注目させたいことを明確にすることができる。
- 算数的活動をし、その後、念頭に操作したことを電子黒板を使って確認させることで、本時のめあてを効果的に達成できる。